Oct 29, 2010　　No.2010-165

Economic Monitor

伊藤忠商事株式会社 調査情報部
調査情報部長　三輪裕範(03-3497-3675)
主任研究員　丸山義正(03-3497-6284)
maruyama-yo@itochu.co.jp

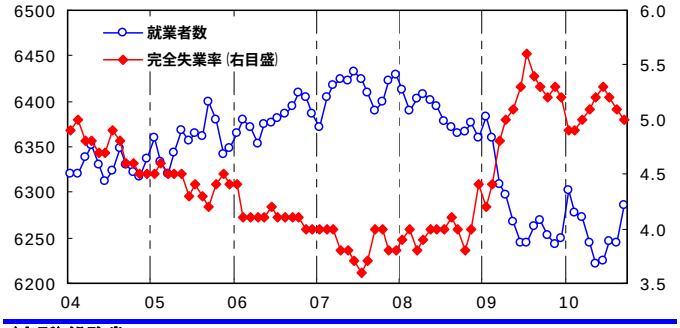
失業率は低下継続も、先行きには暗雲（9 月労働力調査）

失業率は 5.0%に低下。但し、9 月の改善には違和感を覚える内容が多く、一時的な動きの可能性が否定出来ず。10～12 月期は製造業の大幅減産に伴い、雇用情勢も改善が足踏みする見込み。

9 月の失業率は、前月から変わらずとの市場予想に反し、3 ヶ月連続で低下し 5.0%となった（6 月 5.3%→7 月 5.2%→8 月 5.1%→9 月 5.0%）。但し、後述する製造業就業者数の大幅増加など 9 月の統計には違和感を覚える内容も多く、**10 月には失業率が再び上昇する可能性が否定出来ない**。

求人広告件数の持ち直しや雇用調整助成金の申請減少などを踏まえれば、雇用情勢の緩やかな持ち直しは継続していると判断される。しかし、10～12 月期に確実視される鉱工業生産の大幅減少などにより、**雇用情勢の持ち直しは 10～12 月期に足踏みを余儀なくされ、失業率も 2010 年内は 5%以上で推移**すると見込まれる。

失業率と就業者数の推移（%、万人）

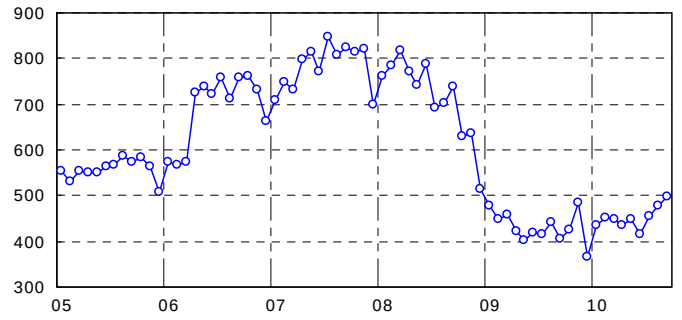


（出所）総務省

9 月は就業者数が前月差 41 万人と大幅に増加し、労働力人口の増加幅（37 万人）を上回ったため、失業者は▲5 万人と 3 ヶ月連続で減少し、失業率の低下に繋がった。但し、業種別内訳を見ると、**9 月に前月比▲1.9%の大幅減産を余儀なくされた製造業で就業者が前月差 32 万人と急増**し、また企業規模別に見ても**大企業に比べ業況の厳しい小企業（従業員数 1～29 人）の雇用者数が 36 万人も増加**するなど、違和感を覚える内容が散見される。そのため、**9 月の就業者数の大幅増加や失業率の低下などの動きは一時的なものに留まる可能性が高く、10 月実績と均して判断する必要**があるだろう。

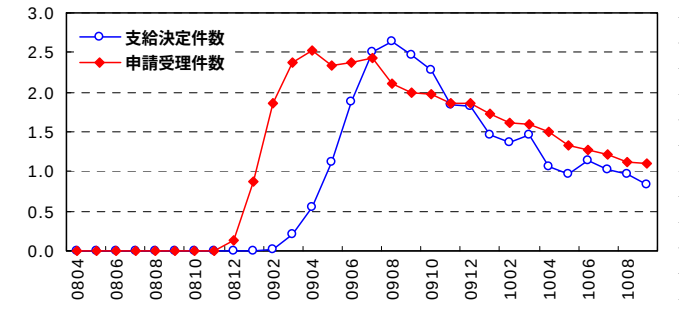
製造業以外の業種では、需要拡大が続く医療・福祉が前月差 15 万人（8 月 14 万人）と増加基調を維持したほか、運輸・郵便（8 月 7 万人→9 月 6 万人）や建設（▲7 万人→8 万人）で就業者が増加した。一方、金融・保険（0 万人→▲13 万人）や卸小売（▲18 万人→▲3 万人）は低調だった。

求人広告件数(季調値、千件)



（出所）社団法人全国求人情報協会

雇用調整助成金の状況（百万件）



（出所）厚生労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠商事調査情報部が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。